

諸外国(留学生)との交流

～諸外国の方から学ぶこと～

校種・学年		中学校・第2学年			教科等	総合的な学習の時間
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等	3時間
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等	模造紙、マジック、感想用紙 コンピュータ、プロジェクター

1 プログラムのねらい

○国際交流を通して、その国の文化や生活習慣を感受することにより、国際理解を深め、国際感覚を磨くきっかけや国際社会に貢献できる人材を育成する。

2 プログラムと既存の学習との関わり

○川越は、小江戸川越といわれ全国のみならず海外からも多くの外国人が観光に来ている。本校は、市街地から若干距離があり外国人と出会うことは少ないが、オリンピックの開催地として今後多くの外国人と出会うことも予想される。その準備段階の一つとして、交流会を通して、諸外国の方々の感覚や価値観、思いなど、自分たちとの共通点や違いなどを知る機会とする。

3 指導計画 (3時間扱い)

時間	主な学習活動・内容等
1	○事前学習(班活動) ・コンピュータ室でインターネットを活用し自分たちのクラスに訪問してくれる外国人の国のことなどについて調べ、模造紙でまとめ情報の共有をする。
2	○各クラス2カ国の外国の方から自国の文化などコンピュータを活用し紹介してもらう。

4 本時の学習指導(本時 2・3/3)

時間(分)	学習活動	支援・留意点等
10	○開会行事 ・担任が来校してくれた方の紹介並びにこの授業の目的を再度伝える。 ・外国人の自己紹介	○話をしてもらっている時は、話に集中させるため、メモ等は取らせない。
80	○コンピュータを活用し、自国の紹介や留学の目的、今後の夢や目標などを話してもらう。	○東京国際大学の留学生に来校してもらった。(ベトナム・ネパール・インドネシア・アメリカ・タイ・中国)
10	○閉会行事 ・クラスの代表者からお礼の言葉を伝える。その後、本授業で気が付いたことや感想を書く。感想用紙等は、後日掲示し、共有し合う。	

5 おすすめのポイント (さらに、効果アップ!)

○来校する外国人の話の内容を事前に知っておくことで、事前学習に広がりが見られる。
○世界で何カ国の国々からオリンピックに参加するのか確認し、その国の簡単な言葉(例えばあいさつや簡単な会話など)を掲示できれば学習に広がりをもてると考える。